

「退任にあたって」



おおはたまさゆき
大畑雅幸教育長

このたび、恵那市教育長を退任することになりました。保護者をはじめ、恵那市民の皆様には、大変お世話になりました。特に、この2年間余りは、コロナ禍で、様々な施策、活動を制限することになり、ご迷惑をおかけしました。心から感謝と御礼を申し上げます。

55歳の若輩で教育長を拝命し、学校教育以外に十分に知識のない私にとっては、教育行政全般、文化、スポーツ、生涯学習、社会教育、幼児教育等と幅広い守備範囲は、戸惑うことばかりで、ご迷惑をおかけしましたが、市役所職員や各関係の皆様のお陰で職を務めることができました。誠に有難うございました。

9年3カ月半の在任期間中、大して実を結んだことはありませんが、何を措いても、恵那市で育つ子ども達の良好な成長に努めることであると考えて、これまで舵取りをさせていただいてきました。当市の子供達は、学力の如何に関わらず、全般、「自己肯定感」の低さが特徴です。このことは、“恵那雑巾”という言葉に象徴されるように、「黙っていることは美德」、この地の秩序が保たれてきた、“良さ”、“風土”でもありますが、子ども達にとって、ICT等の進歩や目まぐるしく変化する社会の中で、自己実現を図り、遅く生き抜く人に成長するためには、弱点になることもありました。

そこで、「主体性と社会性、郷土愛の育成」を掲げ、学校教育に各地域の教育力をお借りすることを考えました。

「主体性」とは、「自分で問題を捉え、自分で考え、判断し、行動する」ことであり、自主性、積極性と比べ、遥かに次元の高いことです。すべてが行動的ではなく、自分が「すべきではない」と判断した時は「とどまる」こともあります。「社会性」は、集団生活に必要な基本的な資質や能力です。「郷土愛」を育てることは、単に故郷に愛着を持ち、できればこの地で生きてほしいという願いだけではありません。“郷土愛の原点は家庭”であるということ、将来、自分が暮らす地で、他に依存した生き方をするのではなく、自分が貢献できることを見出すことです。

著しい少子化と学校の小規模化が進む中、地域の教育力をお借りしなければ、多様化する社会に対応する力は育ちません。第一段階として、全小・中学校を「学校運営協議会(コミュニティ・スクール)」に指定し、地域や関係機関の方々も学校運営の当事者として参画していただくようにしました。令和3年度からは、各地域に「地域学校協働本部」を設置していただき、子ども達が地域の一員として地域活動に参加できるよう学校との連絡役となる「推進員」を予算化していただくことができました。今後は、この2つの組織を充実させることが、子ども達のより良い成長の鍵になると思います。

先人が培ってきた“豊かな自然と歴史・文化”、これが、他の自治体に優る当市の“誇り”であり、“魅力”であると思います。教育に派手さは重要ではありません。また、物質的な欲求も切りがない

と思います。

この“ 恵那市ならではの ”、“ 恵那市らしさ ”を基盤にした教育を継承していくことにご賛同いただければ有難く思います。

やがてリニア新幹線が開通し、当市の状況も変わってくると思います。観光等で訪れる人も増えるでしょうが、心豊かに暮らす当市の人々の人柄と風土、そして“ 教育 ”に憧れて、ここに居を構え、子育てをする人が増えることを夢見ています。

これまで、ご理解とご支援と賜り、本当に有難うございました。皆様のご健勝を祈りつつ、退任のご挨拶とさせていただきます。

学校 ICT 取り組み 「恵那南地区中学校遠隔交流事業」

(学校教育課)

・ ICT 機器を活用した高度な遠隔交流室を恵那南地区の 5 中学校に整備しました。

4 面マルチディスプレイ、プロジェクター、映写対応ホワイトボード、360 度 Web カメラ等の機器を導入し、高度なオンライン学習の環境を整備しました。

・ 遠隔交流室を活用したオンライン交流を実施しました。

学校間をつなぎ遠隔合同授業の実施、5 校による生徒会交流、外部講師による SDGs 講演会のリモート参加、SDGs 視察団との遠隔交流を行いました。

交流事業については、共通課題に合同で取り組むことにより、生徒が多様な意見・価値観に触れる機会をつくることができ、他校の生徒とコミュニケーションを図られました。また、各校の生徒会が交流する機会を設けることにより、生徒が主体となって ICT 機器を活用した遠隔交流に取り組む機会をつくることができました。



SDGs 講演会

恵那市ふるさと学習読本 9 巻が刊行しました

(生涯学習課)

恵那市は、佐藤一斎の「三学の精神」を生涯学習の学びの根幹として、先人顕彰や郷土史の解説を進めています。その一環として作成している「恵那市ふるさと読本」は、郷土の偉人や歴史を学び、いかに恵那市の発展に貢献したのかを、小学生の高学年向けに優しく解説している副読本です。

今回、第 9 巻として刊行したのは、大正時代から恵那の発展の大きな基礎となった「大井ダム」に焦点をあて、その建設に舵をきった日本の電力王と称される「福沢桃介」の功績を紹介した「恵那峡と大井ダム～日本の産業を支えた大水力発電所」です。

普段目にとめることの少ないダム内部の様子を詳細に紹介し、大井ダム建設時の苦難な様子や、電力の供給方法などわかりやすく解説しています。また、ダムの完成でさらに発展した恵那峡の様子も紹介し、子どもだけでなく大人も興味を持って読むことができる内容です。